

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・ 中学年は、視点を与えたり、その視点を共有したりすることで、資料から情報を読み取ることができる児童が増えた。また、資料と比較、関連付けて考えたことをもとに習問題を見出すことができていた。体験学習や社会科見学は、進んで学習する児童が多く、今後も継続していきたい。
- ・ 高学年は、地図帳の活用が進み、地図帳を効果的に使える児童が増えた。また、グラフや資料を読み取れる児童が増えた。単元の導入時の資料提示や学習問題について予想することを通して、児童の学習意欲が高まった。

(2) 課題

- ・ 中学年は、児童にとって身近ではない題材に関して、資料の提示が難しかった。高学年は、地図帳の活用を進めたが、歴史単元での地図帳の使い方が難しかった。場合によっては、地図アプリの使用も含めて考えてもよいのではないか。「思考・判断・表現」領域の『複数の資料を比較したり組み合わせたりして考える活動を設定する。』、『単元を超えて、既習の見方・考え方を適用して考える場面を設定する。』は、B・C児童には難しかった。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	正答率が「基礎」は目標を下回っており、「活用」は上回っている。	/	/
第5学年	正答率が「基礎」は目標値を下回っており、「活用」は上回っている。	正答率が「基礎」は目標値を下回っており、「活用」は上回っている。 (第4学年時)	/
第6学年	正答率が「基礎」は目標値と同程度、「活用」は目標値を上回っている。	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第5学年時)	平均正答率が、目標値を上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体の平均正答率は、目標値より若干下回っていたのでやや課題があると言える。特に「資料の読み取り」問題の正答率が低い。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好である。しかし、複数の資料をもとに判断する問題のみ目標値を下回っているため、課題と言える。	全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>全体の平均正答率は、目標値と同程度、または下回っている。</p> <p>グラフの読み取りはよく出来ているが、図から読み取ることが特に下回っている。</p>	<p>全体の平均正答率は、目標値とほぼ同等かやや上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。</p>	<p>全体の平均正答率は、目標値を上回っていたので学習の状況は概ね良好といえる。</p>

3 授業改善のポイント（観点別）

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題を解決するために必要な情報を資料から探し、抜き出す活動を設定する。 ・グラフを読み取る力を高めるために、次の手順を習慣化していく。 <ol style="list-style-type: none"> 1. グラフのタイトル 2. 出典と発行年 3. 縦軸と横軸 4. 全体の変化の傾向 5. 変化の大きい部分 ・見学やゲストティーチャーとの学習など、なるべく体験的に知識を理解させる。 ・東西南北や地図記号等、反復して学習し、見方を他の単元の学習にも生かせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から考えたことを表現するとき、情報の出どころや根拠をきちんと付け加えるように指導する。 ・複数の資料を比較したり組み合わせたりして考える活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の初めに自然と学習問題に気付くように資料提示を工夫し、学習問題を解決したいという意欲をもたせる。 ・見学前に問題について予想をさせ、確かめたいという意欲を高めるようにする。 ・児童にとって身近な題材から資料を準備し、興味関心を高める。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じて積極的に地図量を活用し、資料を活用する技能を高める。 ・資料を活用して調べる前に、問いについて予想したり話し合わせたりすることで、「予想を確かめるために必要な資料・情報」を明らかにする。 ・学習したことを図にまとめ、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を超えて、既習の見方・考え方を適用して考える場面を設定する。 ・調べたことから考えられることを、タブレットを使って友達と共有し、様々な観点から話し合うことで、多面的に考える力を高める。 ・単元に応じて教師が働かせたい見方・考え方を確認し、指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入の資料を工夫し、興味関心を高める。 ・学習の問題に対して予想したり、話し合わせたりすることで、予想を確かめたいという意欲を高める。 ・タブレット PC や ICT 機器を活用し、児童の興味・関心を高めるようにする。 ・学習した内容が自分の生活と密接に結び付いている

		ことに気付かせ、調べ、考える意欲を高める。
--	--	-----------------------